

図書館報

—— ビブリオテカー ——

βιβλιοθήκη

第45号

2024年2月28日発行

北陸学院中学校・高等学校
図書委員会

〒920-8563 金沢市飛梅町1-10
TEL (076) 221-1944

印刷所 HAYASHI株式会社

「βιβλιοθήκη」はギリシャ語で図書館のことです。

今年度の図書委員会の年間目標は「格致日新」でした。年度の初めに悩んで決めたこの言葉には「物事の本質を追究し、日々向上し続けていく」という意味があります。私は深い思考の世界に沈潜するような読書という営みはただ情報を与えてくれるだけではなく、本の世界に没頭する中で多くの気づきを得ることが出来るものであると思います。多くの人に読書を通じて、それぞれの人生を豊かにしてほしい。この願いと、それをサポートして欲しいという私の決意を込めてこの言葉を選びました。

「本が好き。」という理由で図書委員長になることを決めましたが、何をすることも初めてで目標の実現以前に上手く委員会を運営していけるかと不安でした。その中でもいくつかの試みを実行に移すことができました。とくに力を入れたのは『トシヨジャーナル』の作成でした。ただ情報載せるだけではなく、「興味を持ってもらえるような記事。」をコンセプトにしてみました。もちろんこれまでになかったような記事も載せるのか、どのように周知するのかなど多くの課題がありました。また作成する上で、思っていた以上に時間がかなく、行事や考査と被る月では全く活動が出来なかったりと、これまで意識していなかったことにも気づか



されました。課題に向き合いながら更新を行ったので完璧なスケジュールや内容を用意出来なかった月もありましたが、読んでいただき感想をもらえた時は大きな達成感を感じたのを鮮明に思い出します。

またミツシヨン祭では演劇部の方の協力を得て「朗読劇」と、「しおり作り」体験を行いました。照明を落とし、少ない明かりだけで行ったので朗読がとても際立ち、私も作業の手を止めて聞き入ったのを覚えています。しおり作り体験では、実用的で普段使いたくなるようなしおりを作ってもらおうと材料を厳選しました。当日、たくさんの方に来場いただけたのは、私のことを助けてくださった皆様のお力があつたからこそです。(ミツシヨン祭の報告は、次のページに掲載されています。)



図書委員会 初顔合わせ!!

私は講座に参加して、POP作りの難しさを学ぶことができました。はじめはPOPなんてすぐに書けるだろうと思いきPOPを作ろうと迷いましたが、いざPOPを作ろうと

POP講座

11月15日(水)

うつのみや書店の伴響さんを講師にお招きして、図書委員1年生を対象にPOP講座を開催しました。作成したPOPはクオリティの高い作品となりました。

全てが手探りで、自分の思い描いていたようにスムーズにいかない時もあり、無力感にさいなまれることがありました。それでも委員の皆さんははじめ多くの人の励ましや助けがありました。二年間の任期を終えることができました。決して完璧な委員長ではありませんでしたが、一人でも「格致日新」ができたのなら幸いです。一年間支えてくださった皆様ありがとうございました。(207H 上田 知弥)



『トシヨジャーナル』

POPを作成する機会を与えられて、本に対する意欲・関心が高まったような気がします。POPを書くのは小学校以来だったので、どのようにすればと戸惑いましたが、手本や書き方をまとめた資料などいろいろ参考に、理解を深めながら作ることができました。特に、たくさんの方に興味を持ってもらうための「キャッチコピー」の書き方を学べたよかったです。POP作りの経験を将来的にも活かしていけたらいいなと思います。(106H 岸野 杏咲)



POP講座 力作勢揃い!!

してみると、思いのほか難しくてびっくりしました。私が特に難しいなと思った所は、「一言で「本の魅力」を伝えることです。どうしたら多くの人の目に留まるPOPになるか、悩みながら作りました。二つの事を分かりやすくまとめた今回の体験を今後の学校生活でしっかりと活かしていきたいと思います。(105H 澤野 真優)

ミッション祭

9月2日(土)

企画内容

- 「朗読劇」ごんぎつね
- 「しおり作り」体験
- 「POP」展示

今年のミッション祭において、我々図書委員会は演劇部と共同で「朗読劇」を行いました。図書委員や演劇部員の懸命な呼びかけ、ポスターによる集客で、多くの来場があり成功を収めることが出来ました。

夏も終わりに差し掛かった9月上旬に行われたミッション祭。まだまだ夏を感じたいという思いから、ホラー要素を朗読劇に落とし込み企画を立てました。また朗読劇を行う際、幅広いお客さんに楽しんでいただくたく、悲しく怖さを感じるも、様々な教訓を得られる『ごんぎつね』という題材を選びました。初めての方はもちろん、小学校の国語の教科書に出てくる童話のため、「久々に聞いた。」という方も多くいらっしやいました。暗闇の中キャンドルを灯す演出により、ムードのある空間を楽しんでいただけたかと思えます。

次年度以降は、音響や照明など様々な案を演劇部員とすり合わせ、よりお客さんに入り込んでいただける朗読劇を作りたいです。

(2022H 荒井 瑞希)



ミッション祭 しおり作り
上手く作れるかな

今年度のミッション祭で図書委員が行った取り組みは、「しおり作り」体験と「朗読劇」がありました。今年から全面的に新型コロナウイルス感染症の制限が緩和されたため、本校の生徒やそのご家族、外部からの人など、特に子供連れの家族が多く参加してくださりました。「朗読劇」では、演劇部の協力のもと『ごんぎつね』の朗読を行い、訪れた人の心を掴み、いろいろな気付きを与える良い活動になりました。「しおり作り」体験では、小学生、中学生を中心にたくさんの方が来てくださり、それぞれが自分の好きなデザインのおりを作りました。これをきっかけに、「本に触れ合う機会がより一層増える」と良いな。と思いました。

図書委員会の活動に協力してくれた各クラス委員、先生や図書館司書の方々のおかげで、ミッション祭の活動を完了することができました。ありがとうございます。

(2023H 粕谷 彩人)

図書委員会の企画で「しおり作り」と演劇部による「朗読劇」を行いました。どちらもたくさんの方が参加して、とても充実した内容となりました。ワイワイとにぎやかだったしおり作り。一転して、静かで落ちつ

いた空気が流れた朗読劇。「しおり作り」では、自分のオリジナルを作れるように、たくさんさんのシールや色ペンを用意して、小さいお子さんにも喜んでもらいました。「朗読劇」は、会場の図書館を暗くして、キャンドルライトで照らしながら朗読をするという大変素敵な催しでした。

クラスの出し物もある中、みんなが楽しめるような企画を考えてくださった先輩方、本当にありがとうございます。来年も生徒やお客さんが来てよかったと思えるようなミッション祭になればいいなと思います。

(2024H 巽 結華)

学級文庫

各クラスの図書委員が、図書館の蔵書から「学級文庫」を定期的に選んで教室に設置しています。本をアピールするため、今年は手書きPOPも添えました。POPはミッション祭でも展示しました。

(図書館)

選書会

10月27日(金)

うつのみや金沢香林坊店に行つて、選書会を実施しました。当日は図書委員有志が、本校図書館の蔵書にしたい本を選びました。

高校生図書委員の選書会で、皆に読んでほしい本、ためになりそうな本、話題の本、有名人のエッセイ本など、たくさん本を選んできました。学校の代表として皆のために、本を選ぶというこの会で、性別学年を問わず、普段接点のない委員達と本を通して関わりました。読みたい本が増えたり、新しいジャンルの本に挑戦するきっかけができて、純粋にとても楽しかったです。

最近本から離れていた私ですが、選書会に参加した今は本が読みたいくて仕方がありません。選んだ本が学校の図書館に並んだら、「一番に借りよう！」と思いました。

本をあまり読まない人、よく読む人、私のように「中学の時は読んでいたけど、そういえば近頃本を読んでいるいな。」っていう人、皆が手に取って楽しめる本を選んだ自信があるので、ぜひ図書館に行つて読んでほしいです。

(2024H 中野 美空)

購入図書リスト

- 『天久鷹史の推理カルテ』
 - 『死神と天使の円舞曲』
 - 『真夜中のマリオンネット』
 - 『ヨモツイクサ』
- 以上4冊
- 知念実希人
 - 小林 泰三
 - 大島 健二
 - 河出書房新社
 - 奈須 きのこ

- 『コーヒー一杯分の時間で読む「教養」世界史』 Gakken
- 『四書五経入門』 竹内 照夫
- 『住宅・インテリアの解剖図鑑』 松下 希和
- 『聖域』 コムドットやまと
- 『正欲』 朝井 リヨウ
- 『世界史をつなげて学ぶ中国全史』 岡本 隆司
- 『月の王』 馳 星周
- 『天才性が見つかる才能の地図』 鈴木 祐
- 『できるChatGPT』 清水 理史
- 『二木先生』 夏木 志朋
- 『早わかり世界史』 宮崎 正勝
- 『早わかり日本史』 河合 敦
- 『不死鳥と鏡』
- 『アヴラム・デイヴィッドソン』 終サナカ他
- 『名著奇変』 興膳 宏他
- 『文選』
- 『わたしの忘れ物』 乾 ルカ

選書会で購入した本は、図書館に展示しています。いろんなジャンルの本がありますので、ぜひ本を借りて図書館へきてください。

(図書館)



選書会 どれにしようかな？

第47回校内読書感想文コンクール

優秀賞

『静かな雨』



私はまだ自分の世界しか見ることが出来ていなかったのかもかもしれません。

私の中の世界が冬になり肌寒くなった頃、私の心に大雨が降りました。何も知らなかった九月の時点では、まだ小雨だったと思います。少しずつ自分の体調と向き合わなければならなくなった時、追い打ちをかけるように一気に冷たい風が私に吹きつけました。この時から私は、嫌なことを消し去って逃げるように記憶力が弱くなっていきました。

そんな冬も過ぎ、私はこの夏『静かな雨』という本と出会いました。事故による後遺症で新しい記憶を溜めておけなくなったこよみさんと、足に麻痺がありながらも彼女を支えていく行動さん、二人の世界が混じり、離れ重ね合っていく、そんな日常が描かれた物語です。私が初めてこの本を読んだ時、コーヒーのように舌に残るような後味のある作品でもなく、炭酸のように喉に突っかかって弾けるような作品でもない。ただ真っ直ぐ喉を通していくような軽い水のような作品だと感じました。物凄く心に残る、泣ける、笑える、焦る、そんな感情を

持ち込ませず、ただただ今までも続いてきて、これからも続いていく。二人の周りを巡る日常の一部をこちら側が覗いているようなお話でした。

この本は記憶や想いを通して描かれていきます。登場人物であるこよみさんは事故により、突然高次脳機能障害を患う一人となりました。新しい記憶を溜められない病

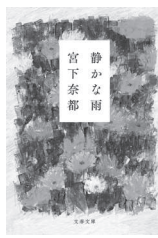
気、私と似ているなと思いました。私は一昨年の冬に精神障害の病気と診断されてから、溜めておいた記憶を上手に取り出せずに、思い出すことが難しくなっていました。私の場合は、こよみさんのように記憶障害そのものという病気でなく、水槽の中の水が溢れそうになれば蓋をするように、感情が溢れそうになると記憶という水槽に蓋をします。毎日そうして自分の感情に追いつかれる前に記憶を消す癖がついてしまい、感情が溢れるのを防ぐと共に自分自身の記憶が思い出せなくなりました。

込むことはしませんでした。「新しいものやめずらしいものに、たくさん会うことが世界を広げるわけじゃない。ひとつのことにどれだけ深く関われるかがその人の世界の深さにつながるんだとあたしは思う。」小説の中でこよみさんが将来に悩む高校生に言った言葉、この言葉が私の心に深く残りました。こよみさんは色々な経験をした上で、たいやき屋を営むことに深く関わることを選択しました。私はこよみさんにとってたいやきと深く関わるという事は焼き加減や餡の量を調節して販売することだけでなく、なぜこの量になったのか、なぜこの焼き加減が適切だと思ってる提供しているのかなど、たいやきを通して自分自身を視て、向き合い、その世界を深くしていくことなのかなと思います。事故前後で記憶が保てなくなっても、今までの自分の生きてきた経験や体験してきたことに頼る。記憶の中では途切れてつぎはぎになっている昨日よりも、より深く生きることが出来る今日になるように変わらずに続ける。こよみさんの生き方は何者でも無い自分、むしろ記憶を保つことが出来な

いという世間から見るとマイナスから始まる自分を何者かにしていく凛とした芯のある女性に感じさせました。自ら自分をマイナスの方へむけさせ、その沼へはまってしま

う自分とは全く違う生き方を導くこよみさんの姿は、私の心に深く印象づけられました。記憶という次の日には溶けて無くなり、また降り積もる雪のように淡く脆い線をたぐり寄せ、お互いの重なり合う世界の中で春を迎え入れようとする。そんな二人がとても儂く、でもどこか強く感じさせる一冊でした。二人のように暖かい季節を迎え入れるために、自分と向き合い、自分の世界をより深くしていきたいです。

『静かな雨』 宮下奈都 文藝春秋



『静かな雨』は第98回文学界新人賞佳作に入選しています。図書館にもありますので、ぜひ一度読んでみてください。

(図書館)

校内読書感想文コンクール 審査結果

夏休みの課題「読書感想文」として、本校1、2年生が提出した作品をもとに、「校内読書感想文コンクール」を実施しました。その審査結果をご報告いたします。

☆最優秀賞

『少女モモのながい逃亡』

207H 上田 知弥

☆優秀賞

『静かな雨』

105H 木村 未来

『人間失格』

207H 有吉 優名

『昆虫の惑星』

202H 浅野 眞琴

☆優良賞

『ラブ力は静かに弓を持つ』

101H 初崎 朝陽

『青くて痛くて脆い』

107H 田賀なつみ

『掬えば手には』

107H 根本 朱夏

『ことばのトリセツ』

206H 細木 奏汰

『昆虫の惑星』

209H 松浦 心音

以上9作品の入賞が決まりました。

なお、校内入賞作品うち、5作品を石川県の「読書感想文コンクール」に出品しました。今回は県代表に選ばれた作品はありませんでしたが、自身の内面を見つめ、これからの一歩につながる本との出会いを綴った感想など、高校生の心の内が吐露された作品も多く、先生達も刺激を受けました。本との出会いは心を豊かにします。宿題だからというだけでなく、手にとって、読んで欲しい本が沢山あります。是非、図書館へ。

(国語科 藤田弘美)

中学校図書委員会

図書委員会の活動を通じ

中学3年 小村 優奈
 昨年の十一月から一年間、先生方や司書の方、図書委員の皆さんに支えられ、図書委員長という大役を務めることができました。本当にありがとうございました。

これまでの活動では、読書会や選書会を通して、私自身に触れる機会が増え、本をますます身近に感じるようになりました。選書会では、中学生の皆さんからリクエストされた本をたくさん入れることができました。ぜひ図書館に行つて、手に取ってください。皆さんにも、本を身近に感じてもらえると嬉しいです。



意見を出し合います



生まれて初めての読書会!

第一回「読書会」に参加して

中学3年 高島 美侑

私は、今年度第一回の読書会が、初めての読書会への参加でした。本を読むことは好きでよく読んでいたのですが、複数人で同じ本を読んだことがなかったのと、とても新鮮でした。本は『凧になったお母さん』という戦争のお話でした。参加者は9人でしたが、それぞれ違う部分が残つたと言っていて、感想が重複することはほとんどありませんでした。同じ本でも、読む人によつて感じ方はやはり違うんだなと改めて感じました。次回もいろんな人と感想を共有し合うのが楽しみです。



「読書会」に参加

中学1年 亀崎 杏奈

選書会に行く前におこなったアンケートでリクエストされた本の中に、あまり読んだことのないジャンルの本が何冊もありました。本屋さんで表紙や中身を少しのぞいてみると、続きを読みたいなと思う本でした。選書会は新しいジャンルに挑戦するきっかけになるなと思いました。私は、東野圭吾の『あなたを誰か殺した』を買ってもらいました。今読んでいる最中ですが、続きがとても気になります。図書館にこの本が入つて嬉しいですよ。次回の選書会にも行きたいと思っています。

★実施日	10月6日
★参加生徒数	14名
★場所	うつのみや 香林坊店
★入った冊数	45冊

昨年より10冊も多く入りました。リクエストにもお応えしています。どうぞ図書室で借りてください。

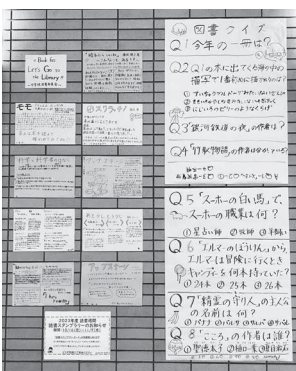


リクエスト本を探します

Book fes. 実行

中学2年 柄田 芹斗

Book fes. は、図書館主催のスタンプラリーにタイアップして昨年度から始めた活動です。引き続き今年度も行つてみて、あまり効果が出ていないのではないかと僕は感じました。宣伝をあまりしていないというの要因の一つですが、それよりも図書館そのものに魅力が少ないのではないかと感じました。



来年度は、さまざまな人が図書館に行つてくれそうな、おもしろく、それでいてためにもなるような本を図書館に増やすなどの取り組みをしてから、Book fes.を迎えることができるようにしたいと思っています。

第二回「読書会」に参加して

中学2年 吉田 悠人

ぼくは図書委員になり、生まれて初めて「読書会」に参加しました。ぼくは小学校のときから小説が好きではなく、歴史まんがや絵本ばかり読んでいました。今回の本は『狐フェスティバル』でも読み

やすいのですが、感想をうまく言うことができるか心配でした。でも、同じグループになった図書委員の先輩が優しく声をかけてくれて、こういうところがおもしろいとか自分の思ったことを言ってみて、と言つてくれたおかげで、楽に発言することができました。他の人の感想もとても興味深くて、次の読書会ではどんな本を読みたいだろうと、どんどん楽しみに変わつていきました。これからも読書会に参加したいな、と思います。

クラス図書選びのやりがい

中学1年 山本 琴葉

クラス図書には、その時期に合った本や話題になった本を選んでみたり、シリーズものの本を選んでみたりしました。図書館に足を運んでもらえるようにすることは難しいことでしたが、やりがいのある仕事でした。前期委員会の振り返りをしたとき、先輩から「中3では修学旅行があったので、行き先に関する本を置いた」などの工夫を聞いたことが良い刺激になり、さらに工夫して選ぶようになりました。最近ではクラス図書を手に取ってくれる人や、図書委員会のイベントに参加してくれる人も増えて、「委員をやれて良かったな」と感じることも多くなりました。来年、私たちに先輩ができたとき、同じように参考にしてみたいように、後期のクラス図書選びも楽しくやっていきたいです。



みんなが手に取ってくれるように



好きな本を選べるの、楽しい!

図書委員を務めて

中学1年 柿沢 真心
私は後期図書委員になって、図書委員は少し大変だけれど、やりがいを感じられる委員会だと思えました。例えばクラス図書を選んで、自分の選んだ本が手に取られているのを見ると、「この本を選んで良かった」と感じる事ができました。

第48回校内
読書感想文コンクール



題名「傲慢か謙虚か」

中学1年 稲岡 アリ二

題名「この夏に自分を変える」

中学3年 石塚 みのり

題名「時間に眠る美しさ」

中学3年 上田 桃子

以上の3点は本校代表として金沢市読書感想文コンクールに選出されました。

2023年度
校内読書感想文コンクール
最優秀賞

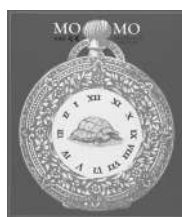
図書『モモ』
ミヒヤエル・エンデ著
題名「時間に眠る美しさ」
中学3年 上田 桃子

時間が尊い。この本の最後のページまでたどり着いた時、そんな感情に包まれた。私は、モモと時間泥棒が「時間」を巡って争うこの物語に、一体どんなメッセージが隠されているのか考えながら読み進めてきた。そして、著者は私たちに「時間」の美しさ、大切さを伝えたかったのだという事に得心した。

モモが住む街は、もともと、あたたく、のんびりしているところだった。しかし、時間泥棒に洗脳されてから、街の人々は、毎日毎日死に物狂いで時間を節約するように

なった。だが、節約した時間は時間泥棒に奪われる。だから、節約をすればするほど、生活の楽しさや幸せが失われ、人々の心は冷たくなっていった。彼らはもう、日常に幸せや喜びを感じる暇はない。ただ時間を貯蓄することだけを考え、毎日時間に追われていた。

この街の人々の有り様は私たちに共通しているところがあるように思える。いや、むしろ現代社会人は彼らそのものだ。私たち人間は時間に日々追われている。学生なら学校での勉強と家での勉強、社会人なら仕事、そして一日に三度の食事、家の手伝い、睡眠。一日はたった二十四時間しかない、というのに。そうなる「時間」そのものが嫌なものに思えてくる。私も、今日やつても、また明日になれば同じことを繰り返さなければいけない時間が嫌になることがある。特に、テスト期間などは、やつてもやつても終わりの来ない勉強に挫けそうにもなる。こんなふうに「時間」にうんざりしたことがあるのは私だけではないだろう。そういう時は毎日が大変に思えて、生きている時間が楽しく思えない。しかしそんな思いも、「時間の花」を見れば吹き飛んでしまうはずだ。



モモは、時間泥棒に奪われた街の人の時間を取り戻すために、時間の国へ行った。みことな金色の丸天井と、その下の黒い鏡のような池。星のようにきらめいてゆったりと動く振り子。この星の振り子が池の縁に近づくと、池の水面から大きな花のつぼみが、すつとびて出てくる。振り子が近づくとつぼみはだんだん膨らみ始め、やがてすつかり開いた花が水の面に浮かぶ。その花はモモが一度も見たことがないほど美しい。やがてまた振り子がゆっくりゆっくり戻っていく。と同時に美しい花はしおれ始める。花びらが一枚、また一枚と散って、暗い池の底に沈んでゆく。そのとき、モモは二度と取り戻すことのできないものが永久に消え去ってゆくを見るような悲痛的な気持ちがあるのだ。しかし、そのときには、池の向こう側にまた別のつぼみが水面から浮かび上がる。

この場面はすべての表現が美しく、そこにいる自分を想像するだけでも心が満たされる。私はここで、著者がこの物語に隠したメッセージに気づいた。私が思うに、我々が生きる「時間」も「時間の花」のように、本来はとても美しいものということだ。家族や友達と過ごす時間も、新しいことを学ぶ時間も、おいしい食事でお腹を満たす時間も、あたたい布団で眠る時間も、三百六十

五日、二十四時間、私の時間の振り子が動き始めてから止まるその瞬間まで、全部が美しい。しかし、時間の花が一瞬で消えてしまったように、美しい時間は一瞬で消えてしまうのだ。そして、取り戻したくても取り戻すことはできない。今のこの時間も、次の瞬間には過去になる。

だから、私たちはこの限られた時間をもっと大切にしなければいけない。そして、私たちは「時間」というものの美しさに気づかなければいけない。きつと、多くの人はその真理に気づいていない。今、この地球上では、小規模なものから大規模なものまで、本当にたくさんのお毛な争いが起こっている。せつかく私たちに与えられた美しい時間をむなしくするようなことをしてもよいのだろうか。もしも、世界中の人々が時間の美しさに気づいたなら、その世界はどんなに平和で、あたたかいだろう。そんな素敵な世界がいつか訪れることを、私は祈っている。

今、私のすぐ傍らでは、私の愛しい妹がピアノを楽しそうに奏でている。やはり、時間は尊い。窓から見える太陽はもうすでに傾き始めている。時間の秒針の音色が耳に聞こえてくる。今日の残りの時間も、あと少しになってきた。私は今日、私に与えられた美しい時間を大切に過ごせていたのだろうか。これから歩いてくる私の時間を、私は、大切に歩んでいきたい。

全国高等学校ビブリオバトル
2023石川県大会
 11月5日(日)

本校は高校1年生の理科の授業の一環で「サイエンスQuest」という探究学習を実施しており、その中で理化学研究所の事業「科学道100冊」を利用したビブリオバトルを行っています。毎年、各クラスの入賞者をビブリオバトル石川県大会に推薦しています。今年度は、4名の生徒が学びの杜のいちカレードで行われた「全国高等学校ビブリオバトル石川県大会」に挑戦し、決勝に進出するという快挙を成し遂げました。このビブリオバトルは、参加者がお気に入りの本を熱く語り合う場であり、読書を通じた思考力、表現力、判断力を競います。本校生徒の発表はとても個性的で、その人らしさの賜物にあふれた素晴らしいもので、誰が優勝してもおかしくないほどでした。本の魅力を本当に楽しそうに語り、バトルと名付けられてはいますが、それぞれの発表そのものに価値があったと思います。他の皆さんも含めた高校1年生のオススメ本紹介カード(レポーター)は、図書館に掲示されておりますので、興味がある方はそちらもご覧ください。それぞれにユーモアがあり工夫された紹介カードばかりで、きつとあなたも手に取りたくなくなる本が見つかるでしょう。

(理科 上坂 應文)



ビブリオバトル大会 練習の成果発揮！不安もあったけど出場してよかった！！

『脳科学は人格を変えられるか?』
 106H 北間 莉子
 『ロボット・イン・ザ・ガーデン』
 108H 竹端 優里奈
 『ほぼ命がけサメ図鑑』
 109H 用村 都
 『スペース・コロニー宇宙で暮らす方法』
 110H 堀井 瑠偉

図書館報告

本校図書館は、高校生と中学生それぞれの図書委員会、教職員の委員会が連携し、知恵を出し合いながら読書活動の推進に取り組んでいます。

〈授業利用〉

理化学研究所の「科学道100冊」7シリーズを揃えて、高校1年生全クラスの物理基礎・生物基礎「サイエンスQuest」で活用しました。
 〈テーマによる展示〉

図書館内では、毎月テーマを変えて、本の展示を行っています。

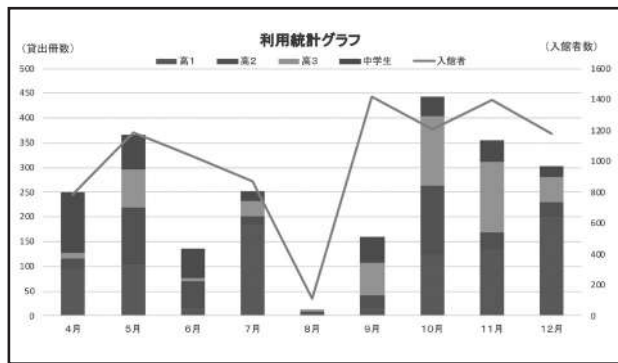
- 4月 図書館へようこそ(絵本)
- 5月 著作権の本

図書館利用統計

4~12月

- 〈個人貸出BEST5〉
- ★高校生
 - 1位 302H 長澤 真帆 128冊
 - 2位 206H 加瀬 遙奏 62冊
 - 3位 302H 片山 莉子 57冊
 - 4位 206H 高尾 脩愛 54冊
 - 5位 202H 村井 凜乃 40冊
 - ★中学生
 - 1位 2年 平野 満理子 37冊
 - 2位 3年 表 詩織 30冊
 - 2位 1年 鈴木 美早紀 30冊

- 6月 宮沢賢治について
- 7月 「校内読書感想文
コンクール」課題図書
- 9月 北陸学院関連 創立記念
- 10月 デイズニー特集
- 11月 紫式部について
- 12月 クリスマス絵本
- 1月 成人式について
- 2月 鉄道・新幹線について
- 〈先生おすすめの本〉
 新任の先生による「おすすめの本」を教室掲示、図書館展示しました。
- 6月 中村 未奈 (音楽科)
- 9月 山下 華果 (国語科)
- 11月 出口 琴野 (保健体育科)
- 〈読書スタンプリー〉
 10月16日(月)~11月9日(木)
 秋の読書週間にあわせてスタンプリーを実施しています。スタンプを集めた利用者のべ31名には、書店提供の豪華景品を渡しました。
 (司書 大音師 華子)



貸出利用冊数	2021年度	2022年度	2023年度
高校1年	630	1,525	870
高校2年	263	351	445
高校3年	339	341	532
中学1年	298	329	170
中学2年	95	262	150
中学3年	250	166	108
教職員等	470	496	533
合計	2,345	3,470	2,808

- 〈貸出作品BEST3〉
- 1位 キノの旅 時雨沢 恵一
 - 2位 わたしの幸せな結婚 顎木 あくみ
 - 3位 変な家 雨穴
- 〈貸出作家BEST3〉
- 1位 時雨沢 恵一
 - 2位 湊 かなえ
 - 3位 知念 実希人

先生から

今年度の高校図書委員会のスローガンは「格致日新」でした。上田図書委員長と共に、物事の本質の追求と知識を深める事を第一に、年間活動をお手伝いしてきました。読書の習慣がない人にとっては、いくらおすすめされてもその価値が想像しづらいものかもしれません。私が皆さんに伝えたい図書館の良さは「もっと詳しく、もっと具体的に知りたいたい」と思ったら本の出番です。ネットでの情報収集は手軽ですが、あなたの好奇心を満たす役目を果たすのは本しかありません。各分野、ジャンルに分けられた本棚の前に立つて自分の知りたいことに関係ありそうな本を、手に取ってみてください。「読みたい本がなければリクエスト」できる限り、皆さんの要望に応える活動をしていますし、選書会に参加してもらえば実際に本屋で読みたい本を選ぶことが可能です。一人でも多くの人が図書館に訪れることを楽しみにしています。
 (高校図書委員会担当 渡辺 大輔)

編集後記

たくさんの方のご協力をいただいて、無事に発行することが出来ました。ありがとうございます。

高校図書委員会

- 委員長 207H 上田 知弥
- 副委員長 206H 加瀬 遙奏